イムマヌエル教報

2018. 8

1947年7月1日第三種郵便物認可　2018年8月5日（毎月5日発行）　イムマヌエル綜合伝道団

No.865

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

教会は愛されている

ブロックアドバイザー　阪下　謙

「キリストによって、からだ全体は……成長して、愛のうちに建てられることになります。」（エペソ四章16節）

エペソ人への手紙はご存じのようにキリストのからだである教会がテーマになっています。私たちの教会の礼拝では、エペソ人への手紙の連続講解をしながら、教会について改めて学んでいます。私はメッセージの準備をしながら、この手紙を読めば読むほど、主はご自分の血をもって買い取られた教会を愛されていることをひしひしと感じます。

しかしながら、教会はさまざまな問題を抱えながら歩みを進めているという現実があります。これはいつの時代でも同じで、パウロが記した手紙を読むと、ガラテヤ教会は律法的になってしまい、福音の恵みから逸れてしまう危険がありました。また模範的であったテサロニケ教会でも再臨という教理的な問題があり、パウロを心から支援していたピリピ教会には一致という課題があったようです。さらにコリント教会は道徳的な問題をはじめ数多くの問題を抱えていました。主はそのような中で、パウロを用いてそれぞれの教会に手紙を送りました。必要であれば何度でも手紙を通して主のことばは送り届けられたのです。

愛を量る物差しは忍耐であると聞いたことがあります。主は教会に対して、どのような問題があったとしても、またたとえ解決の見通しが見えずに長引いても、諦めることも見捨てることもなく、忍耐を持ち続けられるお方です。さらに、教会が必ず良くなり、問題を乗り越えて成長することを信じ、希望を捨てずに、決して絶えることのない愛をもって恵みを注ぎ続けてくださいます。そして主は教会をその栄光を証しする神の作品として作り上げてくださるのです。このことは聖書を読んでいても、また私たちの教会の歩みを振り返って見ても全くその通りだと頷くことができるのではないでしょうか。主は教会を何にもまして愛しておられるのです。

信仰生活を送る時、さまざまな問題や悩みの中を通されることがあります。個人的な問題ばかりではなく、教会の歩みでもいろいろな課題に直面します。また教団も同じようにさまざまな課題を抱えながら前に進もうとしています。これらの問題の多くは、人間的な力や知恵で何とかできるものではありません。信仰を持って取り組んでいても、解決の兆しさえ見えてこないこともあるでしょう。

しかし、どのようなところに置かれていても主の愛は私たちを取り囲んでいるのです。私たちは主の愛の中に生かされている者たちです。この事実は私たちの教会にとっても、また教団にとっても決して変わるものではありません。

ですから、主は必ず私たちを良い方向に導いてくださることを信じましょう。そして、もし主が示してくださることがあるなら、信仰を持って一歩踏み出し、積極的に課題に取り組む信仰者でありたいと思います。

目次

教会は愛されている……阪下 謙……1
厚生委員会、静岡教区CS講習会、霊想……2
新しい任地で、JEF総会・山陰大会報告……3
海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
北日本ブロック近況と祈りの課題、燭台……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

Immanuel

厚生委員会からの報告

先生方を支える委員会
ザアカイの信仰を手本に

厚生委員長　里村佳子

「それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。イエスがそこを通りすぎようとしておられたからであった」（ルカ一九章4節）

信徒として、初めて厚生委員長となった私に、神さまはルカの福音書一九章からみことばを与えてくださいました。有名なザアカイの記事です。

＊

ザアカイは裕福で地位もありましたが、イエスさまを見たいと願いました。けれども、ザアカイは背が低く群集のために見ることができなかったのです。しかし、その現実に挫けませんでした。そこに止まっているとイエスさまは行き過ぎると考え、先に走って行っていちじく桑の木に登ったのです。

背の低さと群集は障壁でしたが、木に登るという知恵を働かせ、問題を乗り越えたのです。

もちろん、木に登ると落下する危険性がありますが、リスクよりもザアカイはイエスさまを見たかったのです。また、当時は貧しい羊飼いがその木に登っていたことを考えると、外聞や常識に捉われずに、ザアカイが行動したことがわかります。

そして、危ない木の上にいるザアカイに「急いで下りて来なさい」と、イエスさまは声をかけてくださいました。主は心配してくださったのです。心配しただけでなく、大変喜ばれたので「家に泊まる」と言われたのではないでしょうか。

＊

厚生委員会は、引退牧師や現役牧師が健康で安寧した生活を送れるよう、お支えする責務があります。

定例の会議では、牧師が引退を考えたとき、どのように支援すれば引退後の生活への不安を取り除けるのか、できるだけ長く奉仕するため、健康面を含めた環境の整備をどうすればよいのか、具体的に協議しています。

また、今後捧げられた貴い厚生資金を適正に用いて、牧師のために公平に活用できるように考えてまいります。

問題は山積みされていますが、具現化するためには、今に止まっていては解決の道は開かれません。ザアカイのように先に走って行って、上からの知恵をいただき、リスクを恐れず行動すれば、必ず願った以上の祝福があると信じております。

静岡教区CS教師講習会

少子化であっても あきらめない！

藤枝教会　前里達実

静岡教区CS教師講習会は、磐田教会において、7月16日（月・祝）に行われ、57名が集いました。講師には、清水教会の清田智子先生をお迎えしました。

午前は、模擬クラスが行われ、現役CS生も参加し、賛美指導やゲームの用い方、興味を引く教材作りの実践的な体験学習でした。

午後は、新しい讃美歌を何曲か練習し、講師の体験談を伺い、また各教会からCSの現状課題を聞きました。

少子化であっても救霊し続ける、霊的な知恵・指導をいただけた有意義な集会となりました。

青年の夏を迎え

霊想

キャンプで育てられて

ウェスレアン宣教師
アンドレア・スワウトアウト

私は生まれて14年間を小さな町で過ごしました。教会でも学校でも、たくさんのクリスチャンの友だちがいました。高校に上がる前の夏、父の仕事の関係で、私たちは別の小さな町に引っ越すことになりました。教会も変わりました。新しい高校では、クリスチャンとして証しする人はわずか二人。教会には10代の青年はたった一人しかいませんでした。

そんな中でしたが、毎年とても楽しみにしていたことがありました。それは教会のキャンプでした。私は赤ちゃんのころから、成人になって日本に来るまで、毎年ファミリー・キャンプに参加してきました。私が洗礼を受けたのも、そのキャンプです。神さまからの召しを感じたのも、特に日本に行くように示されたのも、そのキャンプでした。キャンプでは、生涯の友がたくさんできました。今も私のことを励ましてくれるすばらしい友人たちです。

キャンプや聖会は、日ごろの慌ただしさから離れて、他のクリスチャンと一緒に、神さまにしっかりと心を向ける時です。新しい町に引っ越しした後も、キャンプは私にとって、なくてはならない大切なライフライン、神さまとしっかりと繋がり、恵みをいただき、同世代のクリスチャンとの交わる大切な機会となりました。青年のキャンプに参加してからもう21年が過ぎました。今でもそのときの楽しい出来事を思い出し、私の生涯でキャンプがどんなに大切な役割を果たしてきたかを思います。

私たちは谷間を歩くような現実の世界に生きています。ときに神さまは、私たちを谷間から連れ出し、山頂に導かれます。それは山の上で一人となって、神さまに心を集中させるためです。そんな時間を、私たちは必要としているのです。でも山頂でずっと生活することはできません。山から下りて来た私たちは、日常の生活、つまり谷間の生活でも信仰をもって生き抜く力を与えられます。

10代のときの私は、キャンプは山頂にいるような経験でした。そこでの経験が今も励ましとなっています。皆さんも、今年どこかのキャンプに参加できますように。そのキャンプで、神さまと、信仰の友と、かけがえのないときを過ごされますように。もし皆さんが、今年キャンプに出席できないなら、来年こそ出席できるように、今から予定表に書き込んでください。

……新しい任地に遣わされて、4か月が経ちました……

主の深い愛に応えて

安食教会
島田貴子

昨年末、長谷美代子先生を天に送り、またたく間に時が過ぎました。多くの方々にお礼を申し上げることもままならず、心苦しく思っております。

ある礼拝時に、ある方が「先生がおられなくなってから力が抜けたようで……」と言われ、一同笑いました。それは皆の、心からの想いでもありました。それでも兄姉方は先生の思い出、教えを心に、イエス様を見上げて共に歩まれ、その姿に私も励まされています。

協力牧師に竿代照夫先生・晧子先生をお迎えし、月一回の説教、聖餐式、教会学校再開に向けての講習会などご指導と恵みを受けております。教会学校キャンプでは兄姉のご愛労によって、子どもも大人も共に森の中でのびのびとした幸いな時を過ごしました。

地上での最期の時まで、忠実で笑顔でおられた先生、そして先生を25年間遣わし、共に歩まれ、安食教会のお一人おひとりを深く愛し導かれる神様に、乏しい者ですが、腰を据えて応えていく者になりたいと願い祈っております。

主は門戸を開いてくださる

小松教会
福田範大

釧路から小松に転任し、生活ペースもずいぶんと安定してきたように思います。ここまで来るのに多くの助けがありました。私には出来ない事でも主には可能であり、引き継いだ営みの一つひとつが終わってみると、すべて恵みであった事が思い出されます。

小松教会では、子どもたちの救いに対しても、重荷が置かれています。釧路の地で蒔いてきた種が、今は場所が代わり、この地で育とうとしている新芽に水やりをしているような気持ちです。子どもたちの幼稚園はミッション系で、牧師家族を温かく迎えて入れてくださいました。子ども集会の案内チラシも気持ちよく掲示してくださり、お子さんがいる先生をはじめ、二組の幼稚園関係者の母子の参加がありました。また10月の終わり頃には、幼稚園の礼拝において、牧師は子どもたちの前で話す機会も用意されています。アドナイ・イルエ、まさに神様は必要をすでにご存じで、全てを備えていて下さいました。主はよいお方。感謝を捧げます。

ふさわしい奉仕を目ざし

別府教会
小川宣嗣

「奉仕するのであれば、神が備えてくださる力によって、ふさわしく奉仕しなさい。」
（Ⅰペテロ四・11）

転任して約4か月。背後の貴いお祈りに厚く御礼申し上げます。

生活環境や奉仕形態、家族も含め周囲の人間関係など大きな変化と直面しましたが、時の経過と共に慣れて来た部分もあります。しかし、今でもふと、「あれ、何で自分はここにいるんだろう?」と、戸惑いにも似た気持ちがよぎることがなきにしもあらずです。

「この一年はとにかく『知る』ことを主体に取組を！」との主牧のご指導を受け、諸集会・諸活動に参加すると共に、何よりも数多くの兄姉方・関係者方の顔とお名前を一致させ、少しでも適切なお声掛けができるようになることを願いつつ労しています。別府教会は、来年の開設50周年記念を控えて備えつつあります。中津と大分両伝道所の働きも並行して進められていますので、隔月で一聖日、訪問・奉仕をしています。引き続きお祈りいただければ幸いです。

第51回 日本福音連盟総会・大会

バックストンゆかりの松江で、山陰大会開催

教団代表　内山 勝

去る6月17日～18日、日本福音連盟第51回総会・山陰大会が松江で開催されました。

ご存知の通り、松江はバックストンのゆかりの地です。聖会会場は、そのバックストンが説教した説教台、彼の署名入りの聖書がある日本聖公会松江基督教会でした。大会のテーマは「神の聖き人」で、聖会第1夜は、加藤望師（ホーリネス広島福音教会）がこのテーマに基づいて、エペソ四・22～24から語ってくださいました。「神の聖い人」は特別な人ではなく、全てのクリスチャンが主の恵みと導きによって到達できるということを、ご自身の証しを交えて語ってくださいました。

聖会2夜は、小菅剛師（日本イエス・キリスト教団札幌羊ヶ丘教会）が、ローマ書7～8章から、人にはできないことを神がしてくださる恵みとしてのきよめを、力強く語ってくださいました。

2日目のセミナーでは、中島信光師（日本伝道隊塩屋キリスト教会）が、バックストンの日本での働き、彼の人となり、私たちにもたらした恵みを語ってくださいました。バックストンがこの松江を歩いて伝道したことに思いを馳せ、心燃やされるひとときでした。

総会では、来年の大会を山形で開催することを決定しました。また、連盟の財政的現状が共有されました。以前のように新聖歌の収益を期待できなくなった今、組織や大会のあり方を考え直さなければならない時期になっていると実感しました。

今大会のためには、南場安正師（松江）が実行委員長として多くの犠牲を払ってくださいました。また、黛睦子師（鳥取）、渡辺寛師（浜田）も委員・代議員として労してくださいました。矢木良雄師と内山も代議員として参加させていただきました。

バックストンも講壇に立った聖公会松江教会が会場でした

海外トピックス

■韓国政府が北朝鮮への風船伝道禁止

米宣教専門通信『ＭＮＮ』は、米国と北朝鮮の間で和平交渉が進む中、風船を使って北朝鮮にビラや福音のメッセージを送り届けているキリスト教団体の働きが禁止されたと伝えている。

迫害下のキリスト教徒を支援する『殉教者の声』（ＶＯＭ）の韓国代表、エリック・フォリー牧師は6月25日、12年間続けてきた北朝鮮への風船伝道を韓国政府が禁止した、と『ＭＮＮ』に語った。

同牧師は、韓国政府が北朝鮮を刺激することで和平交渉を危険にさらせたくないと考えていると語っている。同牧師によると、「現在、直面しているのは風船伝道の完全な中止。韓国政府は、風船伝道が『和平の気運を損なう』として、長年にわたり『今は時ではない。待ちなさい。北朝鮮を刺激してはいけない』と言い続け、これまでにも一時的に制限されたことはある」と言う。

■ナイジェリアでイスラム教徒「フラニ人」とキリスト教徒「ベロム人」が抗争

アフリカ・ナイジェリアでは土地や資源をめぐる争いに民族や宗教、政治的な対立も絡んで数十年にわたり抗争が続いている。中部プラトー州バーキンラディ地区一帯では、イスラム教徒の遊牧民「フラニ人」とキリスト教徒の農民「ベロム人」が土地をめぐり抗争している。ＡＦＰ通信などの報道によると、6月21日、「ベロム人」が「フラニ人」に攻撃を仕掛け、これがきっかけと見られる武力衝突が起きた。国家警察は24日、遊牧民と見られる集団が農耕民の集落を襲撃し、86人が殺害されたと発表。一帯には夜間外出禁止令が出され、ムハンマドゥ・ブハリ大統領は平静を呼びかけた。

警察幹部は会見で、衝突後に「ベロム人」の複数の集落を捜索した結果、計86人が殺害され、6人が負傷。家屋50棟が破壊された発表。『ナイジェリア・キリスト教協議会』（ＣＡＮ）によると、ブハリ大統領は「フラニ」出身で、この事件のために自身を非難することは不当だと主張。「治安に関する課題はあるものの、現政権が治安の分野で顕著な成功を収めていることを多くのナイジェリア人が認めていることは注目に値する」と述べている。

（平瀬聡樹）

国内教会局から

教会建設の務めに
若葉のように芽を

いよいよ夏本番、各教会では教会学校キャンプなど、子どもたちや青年方のためのプログラムが開催されるでしょうか。複数教会合同でキャンプを持つのも一つの方法かもしれません。大変なエネルギーを要する働きですが、主より力を頂いて取り組みましょう。

教育局も模様替えをして青年課、中高生課、教会学校課を設けました。ますます各年齢層に届いてご奉仕が適うよう努めております。今年もＹＳや「とにキャン」が開催されます。私たちの群れに属する若い方々に神様の語り掛けが豊かにありますように。そしてその御声に信仰と献身を持って応答する方々が起こされますように。

神学院の後援会も全国の世話人方と積極果敢な働きを進めてくださっています。様々な結実をお祈り致しますが、わけてもその中から、若い献身者が起こされることを切に待ち望んでおります（箴言一一・28）。

（蔦田崇志）

読書のひろば

プレゼント用の書籍です
こころCafé
伝道のために！

出版事業部刊
定価四五〇円（＋税）

「友人や知人に気軽に渡せる伝道用の冊子を！」そんな願いから「こころCafé」は企画されました。

内容は

＊こころにとめたこと～聖書との暮らしから～
＊社会の最前線で～ハンディキャップを持つ方々と共に～
＊真の救いを求めて～シニア牧師の信仰体験記～
＊もっとキリスト教を知りたい方へ～聖書からのメッセージ～

となっており、それぞれ三つのメッセージが含まれています（詳細はチラシ、ＨＰ、ＦＢなどをご覧ください）。この書の特徴は

●読者の視点で

本書の企画には、最初から信徒の方々が加わっています。タイトル決めや表紙デザイン、また内容的にも分かりやすい表現等、読者の観点から意見をいただきました。

●どなたにでも読んでいただけるように

今回は4人の先生方に執筆していただきました。それぞれ、女性として、男性として、またシニアの立場などから書かれています。内容もエッセイ、証し、伝道メッセージと多様であり、どなたに読んでいただいても、心にとまるようになっています。

●聖書から

現在、出版部では聖書を土台とした信仰生活の助けになるような書籍を企画しています。本書はその信仰の最初の段階の一つともいえるものです。

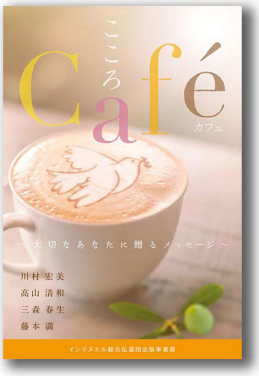
それぞれのエッセイや証しが聖書に基づいた実体験となっており、また最後はストレートな伝道メッセージで締めくくられています。

●お求めやすく

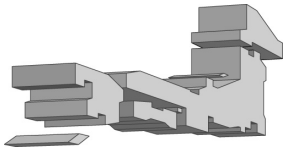
プレゼント用の書籍ということで可能な限りお求めやすい価格にしました。今回は定価４５０円（＋税）のところ、特価３８０円といたしました。

「大切なあなたに贈るメッセージ」とサブタイトルに記されています。ぜひ、この機会にお求めください。そして、伝道のためにお用いください。

（川村和臣）



国内教会局スクエア



北日本ブロックの近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー
川嶋 直行

「聞いてください　主よ。私をあわれんでください　主よ。私の助けとなってください。……私のたましいがあなたをほめ歌い押し黙ることがないために。」（詩篇三〇篇10節）

1　北海道地区

本年度から、北海道地区は国内教会局直轄となりましたので、少し詳しく報告させて頂きます。現在のところ、以前と同じように5月と8月に札幌教会、恵庭教会、釧路教会の牧師たちが札幌に集まり、交わりと祈りの時を持っています。釧路教会は、4月から常駐牧師不在となりましたが、月1回はインマヌエルの牧師が礼拝に出向き、月1回は市内の教会で合同の礼拝、あとは信徒たちでDVD等を使い、小さな群れですが、信徒リーダーを中心に互いに助け合い、信仰の良き交わりが強められています。不定期ですが祈り会を持ち、庭の手入れ等週日に集まって奉仕もしています。6月末から2階住居部分に防犯とメンテナンスを含めて、関係者の方に住んでもらっています。先日、教会駐車場に不審者が出たという情報があり、住人がいることで大変助かっております。現在、深川教会の礼拝同時中継の準備中です。時々、外部から礼拝参加者があるので、釧路教会のホームページを作成し、礼拝の場所・時間等の情報を載せる予定です。会堂南側の高さ20m以上の樹木の伐採が必要となり、主の助けを祈っています。釧路教会は近くに2つの大学、2つの高校があり、広い敷地、立派な会堂もあり、将来、働き人が興されれば再開拓の可能性もあると思っています。札幌教会の渡辺先生ご夫妻も、恵庭教会の小田先生も、お元気に伝道、牧会に励んでおられます。8月15~16日札幌教会を会場に、蔦田康毅先生をお迎えして第34回ポプラ聖会が開かれます。

2　東北教区

3月21日、教団代表内山勝先生の司式により山形教会の献堂式が執り行われました。次世代を担う子どもたちが奉仕を分担し、将来の希望に満ち溢れた献堂式となりました。引き続き、会場を移し東北教区会が開かれました。東北教区は南北に長く、大湊から郡山まで532キロあります。今年の秋は、本州最北端の大湊教会で教区会が持たれます。その際、教区の先生方が交代で講師を務め、教区ミニ聖会が持たれています。各教会と教区の先生方を繋ぎ、互いに祈り合う幸いな機会となってます。東北教区の諸教会の霊調を高めて来た東北聖会ですが、出来るだけ多くの教会が集まりたいと願う反面、信徒さんたちの高齢化もあり、長距離の移動が難しくなって来ています。合同で開き続けるべきか、北と南に分かれ地元の教会から参加しやすくすべきか、教区の先生方も主の導きを仰いでいます。

3　北関東教区

北関東聖会は9月23~24日、日光オリーブの里を会場に、日本宣教会の小坂嘉嗣先生を講師として開かれます。日光オリーブの里は、キリスト教の宿泊研修施設で天然温泉もついています。豊かな自然に囲まれた静なか場所で、主とお会いする良き機会です。今年は2日目の午後に教区会と並行して、信徒主導のプログラムによる信徒親睦会が持たれます。希望者はもう1泊して、親睦を深めることもできるという恵まれた聖会となっています。今年、越谷教会と高崎泉教会は、伝道サポートシステムを活用して特集が持たれました。越谷教会は創立30周年を機に、自給教会となりました。狭山教会は、第1週に日本宣教会狭山教会での合同礼拝を守っています。

樅（もみ）の木の伐採から

「もったいないですナ」と、ご近所から声をかけられながら、先日、教会玄関脇にある樅の木をチェーンソーで切り倒しました。30年前は室内用クリスマスツリーとして飾ったものでした。数年後にはそれを玄関脇に地植えにしました。年毎に成長していく樅の木と当時のCS生徒たちと飾り付けを楽しんだ思い出は、樅の木の年輪そのものでした。しかし私には根の制限処置など植樹に関わる知識がなく、樅の木はいつの間にか幹回りが1メートルを超えるまでに大きくなってしまいました。今では太く大きな根が地中深く広く張り巡らされている様子です。このままでは会堂建物基礎にも影響を与えかねません。ついに覚悟を決め、教会の景観でもあった樅の木の伐採に踏み切ったのでした。■やがて数日もしないうちに、あんなにも思い出のあった樅の木の意識が次第に薄らいでいくことに気づきました。先日も見なれた街並みを車から眺めながら、店舗が取り壊されて更地になっているのを見ました。「はて、あそこにあったのは何だったかな。」と、思い出すのに時間がかかりました。やがてその更地に新しい建物ができて、いつの間にかその風景に馴染んで来ました。それでいいのだと思います。■私にとっての「樅の木」はなんだったのだろうか、と思い巡らしました。というのも、樅の木に登り、チェーンソーで幹を切り始めたときの心の痛みと、七年前の東日本大震災で私の小さな書斎が壊滅し、所狭しと乱雑に積み上がった書類と書籍の上を土足で踏みつけて歩いた痛みと似ていたからです。さらに、書斎再構築に合わせて「書籍のデジタル化」（自炊）に踏み切ったことに関わる行為と酷似していたからです。■デジタル化のために貴重な書籍、全集、辞典などに自らカッターを入れる覚悟は相当なものでした。やがて「創群日誌」のデジタル化を終えてパソコンに取り込みました。調べたかった言葉を検索ワードにしてそれが抽出された時の感動は大きなものでした。その全集はもう書架にはありません。しかし一番利用しやすい形で残っています。そしてそれでいい、と納得しています。「樅の木の伐採」から多くのことを学びました（ルカ一〇・42）。

（國光勝美）

広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

http://www.immanuel.or.jp/world/

世界宣教局

巻頭言

主ご自身が先だって

世界宣教局
野田　禎

「主ご自身があなたに先だって進まれる。」申命記三一章8節

教会福音讃美歌207番に「申命記三一・八」があります。素晴らしい賛美歌です。私たちの神様が先立ってくださり、ともにいてくださること、そして見放さず、見捨てないというお約束。何という励ましでしょうか。

申命記はモーセがイスラエルの民に語り続けてきたことを、再び記したものです。出エジプトをした当時の民から、世代が変わりました。四十年、民は礼拝の民に変えられ、モーセは百二十歳となりました。モーセは約束の地、カナンに入ることはできませんでしたが、イスラエルの民を導くことのできたという達成感と、神への感謝を感じていることと思います。私たちにとって、世代が変わっても、変わらず伝えたいことは何でしょうか。愛する主が、私たちの罪のために十字架に架かり、三日目によみがえられたこと。ともにおられ、先だって行かれること。私たちを聖い民、礼拝の民として選んで下さっていること。聖霊の力を頂いて、地の果てにまでこの喜び、恵みを伝えて行くこと等々。

先だって行かれる神様は、私たちの教団から、七つの地に宣教師を送って下さっています。ケニアから帰国された、蔦田就子宣教師は巡回を始めておられます。また、世界宣教局の働きの一環として、蔦田康毅・由理宣教師をGlobal Youth Ministry（グローバル・ユース・ミニストリー＝GYM）の働きに派遣しました。七月からは午後の集会が行われています。来年には原宿にGloria Ting Centerが完成し、そこで集会が行われる予定です。Gloria Ting長老は、日本の中国人留学生の母と言われていた方です。アメリカ在住のそのご子息たちが、お母様の遺志を継いで財団を設立し、日本にいる留学生、ディアスポラ伝道のために集会場を建設し、蔦田宣教師夫妻の奉仕するGYMの活動拠点の一部として使用させてくださるということです。

主が先立ってくださり、主は私たちともともにいてくださり、ともに歩んでくださいます。この讃美歌をともに賛美しながら、国内の教会、聖徒の皆さんがますます祝され、牧師、宣教師、その家族が守られ、宣教が進められるようにお祈りしたいと思います。そして続く世代のクリスチャンがおこされるように祈りましょう。

ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子＊2018年6月27日

6月に入り、風の吹く寒い季節となりました。夏のように気温は上がりませんが、日中は日差しが強く痛いくらいです。

今月もスタッフ不足が続きました。その中で、保健衛生士と看護師の入れ替えがありました。2人の転任スタッフと、2人の新しいスタッフが与えられました。

看護師は新卒者でジェンボが初めての任地となります。初めは他のクリニックと言われていた様ですが、オフィスのアレンジメント上、ジェンボにということで、急な変更に最初は戸惑っていました。気持ちを切り替えてジェンボでの生活に慣れようとしています。保健衛生士もジェンボは初めてですが、以前いた所よりもジェンボは少し大きい村ということで、ジェンボで働けることを楽しみにしています。彼らの新しいスタートのためにお祈りください。

5月の末に急遽、新しい病棟を開くことがありました。政府のプロジェクトで新しい産科病棟が建てられたのですが、電気が建物に繋がっておらず、建物が出来上がってから半年以上使えない状態でした。

そして、ようやく5月に電気が繋がり、使用できる状態にはなったのですが、スタッフ不足で旧病棟から移ることができていませんでした。その様な中、区役所から使用を開始する様にと通達が届き、少ない人数ではありましたが、周囲の人の助けを得ながら無事に移ることができました。新しい建物に慣れるまで時間がかかりますが、新病棟での働きが始められていることに感謝しています。ただ使用していく中で様々な欠陥が見つかっているため、修理がスムーズに行くように祈っています。

産科病棟では異常ケースや夜中の呼び出しなどがいくつかありました。働ける状態の助産師が私だけなので、すべての出産を見ている状態です。その様な中でしたが、異常のケースも早期の発見・対応ができ、神様の知恵と助け、また背後に多くの方々の祈りがあったことを感じました。

6月の中旬に、洗車をしてもらっている時に宣教車の左後部のスプリングの一枚が壊れているのが見つかりました。友人の助けを得て富沢宣教師が修理に行ってくださいました。直すことができ感謝でした。しかし、数日後ブレーキオイルのパイプの漏れを発見し、また修理に出しました。■

ZAMBIA

ザンビア

富澤　香＊2018年7月4日

車にも慣れて、今月は特に忙しく15回も出回りました。エッ！半月も出ていたのか？と自分でも驚きました。背後のお祈りに支えられて無事に守られていること感謝です。ジンバ病院に来てくださっていた三好康弘医師（産婦人科医）も2年の期間を終えて帰られました。ちょっと寂しいです。先生がジンバにいてくださるだけで、なんとなく安心感があったものですから。またジンバ病院で10年ほど働かれていた米国人の医師ご夫妻も帰国されることになって、ジンバ病院は、大変です。お祈り頂けましたら感謝です。

ジェンボクリニックでの私の働きは、主にサーバントコートと宣教師館の残りの建物に関わっています。何とか8月ぐらいで全て終わりたいと思いましたが、9月に入りそうです。時間がある時、できる時に薬のパックを作り、患者さんに渡すなど薬局の奉仕をさせて頂いております。

今は冬に入って、かなり冷えてきています。今までで一番冷えるように思います。寒くて体が動かない。ホッカイロを使ったり厚着をしたりで何とかしています。

クリニックではスタッフの3人の転出が決まり、新しい看護師の方が1人と環境整備に関わる方が1人来られました。休暇やワークショップで人手不足は、なかなか解消されません。特に根廻宣教師の健康のためにお祈りください。

背後にあるお祈りを感謝いたします。■

CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃＊2018年6月30日

「…主があなたがたとともにおられる。」Ⅱ歴代誌二〇章1節の聖言と共に5月の宣教活動報告を認めましたのが、まるで昨日のようです。カンボジア宣教の旅を直前に、比国はシニプシップのGMAにて執り行われた新改装なったチャペルの献堂式にお招きをいただき、1週間しか取れませんでしたが5年ぶりの訪問が許され、美しいキャンパスの木々に囲まれて聳えたつ塔を見上げ、心からの賛美を主にお捧げし、献堂式に臨みました。テープカットの栄誉は入場行進を弾くピアニスト不在のために急遽他の方にお譲りして、賛美と献堂のお祈りを捧げる聖務を果して参りました。ソロモンの神殿献堂の時を思わせる御霊のご臨在が会堂に満ちての献堂式でした。

創立者ヴィサー師の「信仰のみ」の戦いが理解できず、多くの周りからの批判、中傷の続く中、真理を貫き通して主が栄光を顕わして下さった瞬間でした。ホセ師が信仰を受け継いでこの大きな事業を成し遂げられたことは、反対者たちの口を閉ざすに充分な力でした。それはW教会の新総理ギレアモ師の説教の中にも証しされておりました。今後も聖潔の器を送りだす比国の武器倉とされ、必要が満たされて、働きの拡大されることを祈りつつ帰国しました。

帰国して1週間後、18日に出発カンボジア宣教の旅に向けて荷造りをしている水曜日の夜、祈祷会を終えたある教会から電話が入り、今日の祈祷会でカンボジア宣教のためみ守りを祈りましたが（ヴァンディ師がダビデ君の発達障害の治療訓練費用の捻出のため、車を売却しバイクが交通手段となっていること）、一人の信徒が「主から示されました」と車の購入費を献金してくださったとの朗報。急遽、銀行の手続き、送金のための連絡等、出発までに手筈を整え全能者の御手の中に旅立ちました。詳しい経緯物語はカンボジアニュースレター9号に記載しましたので、ご希望の方はご遠慮なく送信（要メルアド）、または郵送のご希望をお知らせください。献げられた金額では地方巡回に適した車高の高い車が購入する事ができず、なお主を待ち望んで一先ず帰国。帰国後、間もなくヴァンディ師からメール、これが私たちの宣教車！と送信してきました。然も度胆をぬく価格！

私からの質問に、彼は主の使命遂行第一と示され、自分の車の売却金の残金全てを、丁度見つけた理想の車の入手に踏み切ったとの証しと共に宣教車の写真が送付されました。自立教会の建設の第一歩が踏み出されましたこと御名を崇めつつ、なお御祈り下さい。

祖国にて主の御業の成されるために用いられた「水を汲みし僕方」に主の御報いを御祈りしつつ。■

KENYA

ケニア・テヌウェク

蔦田就子＊2018年7月8日

先月の報告で時系列が混乱しておりましたので、出国前の動向から報告させていただきます。

5月9日手術室勤務最終日　10日勤務最終日延長してもう1日勤務　11日以降荷造りと家の片付け等再開　13日片道50キロの一部悪路経由でフェイス宣教師と地方教会出席　14日テヌウェク構内宣教師による送別会（もう一組の家族と合同）　22日8キロ先のボメットで小包受け取りと銀行関係（包帯や病理検査用の空容器等有難うございました！早速包帯等関係部署に届け、自分で配布できない分は他の方に任せました）　24日ボメットで銀行関係　29日午前3時半出発ナイロビへ（現地時間午前7時からのインターネット上世界宣教局会議に出席のため。翌朝の移民局手続きに早朝から並ぶため。ナイロビ泊）　30日午前8時半から移民局の長蛇の列に並ぶ。午後1時過ぎに終了。一度宿舎に戻り一路テヌウェクへ。完全に暗

くなる前に何とか到着　6月4日午前8時手術室内の回復室で、日本からの献金で購入された点滴スタンドと患者さん用衝立の献別式に出席。その後テヌウェクから25キロ先のソティックへ。ケニア国民健康保険の登録もデジタル化されるので再登録が必要になったため。帰路ボメットで郵便局・銀行・給油等。夕食は眼科のロバート宣教師宅　6月5日午前8時手術室の朝のディボーションに招かれ最後の挨拶。数名からの送辞の他、スタッフが手配してくれたケーキが準備されていた。テヌウェク構内の宣教師有志のお祈りで送り出されナイロビへ。ナイロビ市内の修理工場で修理部品在庫の最終確認。今晩宿泊予定のロビン宣教師宅に荷物を降ろして車をテヌウェクに送り返す。ナイロビでお世話になっている日本人ご家族宅で夕食。ナイロビ泊　6月6日午前9時半過ぎに空港へ出発。午後2時過ぎケニヤッタ国際空港より離陸。アブダビ経由　6月7日午後1時頃成田空港着陸。2人の先生に迎えていただき神栖教会泊　6月8日インマヌエル・ミッションハウス入居。市役所で転入等の諸手続き。

以後自動車免許証の更新や健康診断等させていただきながら心身の調整に努めさせて頂いております。集中力や時間の感覚、判断力など、一度ばらばらになってから少しずつ統合されているような感覚を味わっています。■

PHILIPPINES
フィリピン

豊田常喜・恭子＊2018年7月5日

第59回卒業式が6月8日に執り行われ、宗教教育学部から5人、神学部から22名が卒業しました。多くの卒業生を送ることができ、感謝でした。新しい任地に遣わされる卒業生のためお祈りください。

恭子は6月末に10日間、ミンドロ島に行ってきました。聖書大学プロモーションのため、教職10人で2台の車に乗り合わせての片道640キロの旅でした。ミンドロ島教区は今回が約12年ぶりのプロモーション受け入れ。聖書大学の夏休みを利用した10日間でしたが、小中高はもう始まっているため、我が家は療養中の常喜が子どもたち3人と残ってくれました。

ミンドロ島教区内には270キロ離れた2つの市にそれぞれ8つと4つの教会と伝道所があり、2回の日曜日に2、3人のグループに分かれて訪問しました。

ミンドロ島教区の教会は、パラワン島教区の地方教会と街の雰囲気もよく似ていて、初めてなのに久しぶりな感じがしました。また、大岡昇平の俘虜記にも出て来るサンホセを通ったり、日本の戦争の跡を感じる場所でもありました。

私たちのプロモーション自体は他の教区でもしているのと同じ要領でしたが、今回は私がタガログ語で喋るのをビデオで撮っていてくださった方があり、初めて自分のタガログ語を自分で聴くと、思っていたよりもはるかに日本語訛りの強いタガログ語でガッカリはしましたが、改めて慢心せず高嶺を目指すモチベーションも与えられました。9泊10日を陸路で、ネットも電気もままならない、ストレスを感じやすい旅を仲間と過ごした時間がとても貴重で、無事に往復できたことを感謝しました。恭子の留守中、常喜は子どもたちの世話をしていました。掃除、洗濯、食事の準備（これは恭子が作り置きしていたものに熱を加えるだけ）、買い物、実喜の学校同伴など毎日汗を流すうちに体調も以前よりよくなってきました。

ある日、ドスンと台所で大きな音がして、しばらくすると実喜が常喜のところに駆け込んできました。見ると冷蔵庫のドアが外れて倒れていました。持ち上げてみると結構重かったので、実喜がドアの下敷きにならずに済んだことは不幸中の幸いでした。今は新しい冷蔵庫を購入することができました。普通に開け閉めできる冷蔵庫の有り難さを感じています。■

■会計報告6月分

宣教献金　一、一四四、六六〇円
月平均　一、八一七、五九四円

お祈りの課題

カンボジア（蔦田緑乃）
◆宣教車の与えられた感謝
◆12月完成の本部他3つの建設が予定通り完成し、1月に引越が出来るように
◆各地に伝道と教会建設に携わる伝道者の霊的勝利とファイトが増すように

香港（鹿島）
◆牧師夫婦の日本での九州聖会参加のため
◆新来会者の継続礼拝出席と救いのため
◆平和の月、日中関係が良好に維持されますように

台湾（平瀬）
◆毎週もたれている「台南日本語礼拝」の確立のため
◆酷暑の中、私たち家族の健康と生活のみ守りのため

ザンビア（根廻）
◆スタッフ不足中、クリニックでの働きが守られるように
◆ジェンボコミュニティ、ザンビアの人々のため
◆宣教車のため

ザンビア（富澤）
◆寒さを乗り越えられるように
◆クリニックやこの地域に順応ができますように

ケニア（蔦田就子）
◆第5期の締めくくりが守られた感謝
◆帰国後の巡回のため
◆テヌウェック病院の働き人（ルカ一〇章2節）のため、特に麻酔科と検査室の必要が満たされるように

フィリピン（豊田）
◆夏休みに入った学生たちがサタンの誘惑から守られますように
◆パラワン島での大きな会議（8月14～17日）で常喜が2回の説教奉仕をします
◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように
◆子どもたちの学びのため

グローバルユースミニストリー（蔦田康毅・由理）
◆7月から聖日午後に持っている「バイブルタイム」が祝され、働きの基礎が整うように
◆GYMの働きの展開のため、知恵と必要なリソースが与えられるように
◆活動拠点として考えているGTCの建設が予定通り進むように

聖宣神学院報

Immanuel Bible Training College

過去の肯定～一歩先を見ていた

院長●河村 従彦

「神は……、あなたがたの働きや愛を忘れたりなさいません」（ヘブル六・10）

このみことばは、「手を置く儀式」などを「初歩の教え」（1節）と感じるヘブル人たちです。おそらく記者はこのような人たちに、新しい恵みの時代が来ていることを伝えたかったのでしょう。

記者の重荷を受け止めて自分を振り返ると、恵みを知る前はいかにも頑張っていたし、肩にも力が入っていたし、それで迷惑をかけた人もいたなと、消しゴムで消し去りたいような気持ちです。しかし神さまは、ヘブル人への手紙の読者が的はずれだったように、今になって思えばとんでもなく的はずれだった私の過去も頭ごなしにダメ出しされる方ではなく、「忘れない」（10節）と、それも尊としてくださるのです。

今欠けているのは、恵みの視点に立ったこの「過去の肯定」かもしれません。過去の肯定とは、過去を美化することではなく、何が足りなかったのかという自己認識と関係があります。ダメだったから逆説的に神さまによって肯定されるのです。

過去の肯定は希望につながるかなと思いました。「希望について確信を持ち続ける」（11節）ために必要なのは、的はずれだった過去を神さまが肯定してくださるという恵みの認識かもしれません。

ある方と話をしていたとき、ふと聞いてみたくなりました。「後ろ向きの話ばかりが出る今の時代、もし創設者がご存命だったらどうでしょうね」。「時代の難しさは今も昔も変わらないと思うけど、いつも一歩先を見ていましたね」。なるほどと思いましたが、簡単にできることではありません。

しかし、自分の信仰に重ねて考えると、ダメだった過去も神さまが肯定していてくださることを受け止めることができれば、そこから何かが生まれるかもしれない、一歩先を見る希望が生み出されるかもしれないと思いました。過去の肯定、結構大切そうです。

神学エッセー

キリスト者生涯の点と線 ③

主が示される「まっすぐ」

岩上祝仁

信仰者生涯を線と捉えると、もう一つ大切な要素が見えてきます。それが「ベクトル」（方向性）です。線にはいろいろな線があります。曲線、自由線、直線などの種類です。今までの人生を振り返る時に、どのような線を描いてきたでしょうか。人はそれぞれ、様々な線を描いてきたはずです。その人生のどこかで主イエス・キリストを救い主として信じ、受け入れてから、その後の歩みはどうだったでしょうか。まっすぐな時もあれば、曲がってしまっている時もあったかもしれません。

みことばには「あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」（箴言三章6節）とあります。つまり私たちが主イエス・キリストを救い主と信じた時から、主は私たちの人生の線・人格の筋をまっすぐにしてくださるのです。もつれた人生の糸をほどいて、これからの人生をまっすぐに歩むことができるようにしてくださるのが主イエスです。

信仰者にとって、この「まっすぐ」という言葉は大切です。それは主が備えられた「正しく」そして「神に対しての直線的な信仰と信頼」を表現することばだからです。「不信仰と罪」が主イエスの十字架の血と聖霊の働きによって取りのけられて「まっすぐ」にされる言えるでしょう。「自分の悟り」である欲や罪、あるいは聖書と照らし合わせてキリスト者にふさわしくない「この世」的な思いや考えは私たちの人生と人格の「線」を歪めて行きます。私たちはこの歪みをキリストの十字架と聖霊の働きによってまっすぐにしていただく必要があります。

主によって示された「まっすぐ」な道を聖霊の助けによって進むとき、信仰者の歩みの方向性もはっきりとしてきます。その方向性は「聖と愛」です。主に向かうときに、私たちは主の「聖」さを受け取って、主のものとしての歩みをこの汚れた地上において始めます。もう少し言い換えると、「主の栄光」のために生きることです。と同時に「主を愛し、隣人を愛する」ように、聖霊の愛を受けて生きるようになります。この人生の方向性がしっかりと定まったときに私たちキリスト者の歩みはブレなくなります。

私たちの人生に方向性を与えてくださる主を知り、主を信じてキリスト者としての歩みを進めて行きましょう。

◆前期の学びの中で

あなたに必要だから

聴講生　大村真実

まず、神学院での学びを主に感謝します。また、多くの方々の支えと祈りに感謝します。

私の場合、神学院での学びは、生活を通して日々出会う神様・イエス様の事を整理する場となっています。頭と心の中の散らかっていた資料をいつでも、どんな時でも出しやすいようにまとめている感じです。

そしてもう一つ、私にとっては何よりも重要で感謝なことですが、入学当初はまだまだ靄がかかっていた私に与えられている召しやビジョンが学びの中で更に明確になっていきました。神様がどのように私を用いて下さろうとしているのか、自分の立ち位置や生き方がはっきり見えてきました。イエス様によってやっと自分らしく生きられる状態へと、神様が言われる所に喜んで出て行ける心へと、神様が整えて下さいました。

六月中旬頃、私は神様に聞きました。「なぜ神学院で学ぶのでしょうか？」と、神様は「なぜ神学院で学ぶか分かるか？」と逆質問。私は「分かりません」と答えました。「あなたに必要だったから」それが神様からの答えでした。その答えと同時に、必要だったから与えられ、必要がなくなったら神様が閉じられ、別の必要を満たしてくださることを理解しました。

現時点、神学院での学びが継続か否か、神様は私にはっきりと示されていません。神様の時が来るまで祈り待ち望んでいる状態です。神様がどのように導かれるのかがはっきりと分かるように、そして喜んで心から従えるようにとお祈りして頂けると幸いです。

◆前期の学びの中で

聖書に聞き入ると

聴講生　矢代由有

入学を許されて3か月、色々な事がありました。主に仕えることを願い、ともに心を込めて学ぶ友。聖書の本質的メッセージに目を開かせようと、導いてくださる先生方。皆さまの祈りや奉仕に支えられて、この学び舎に来られることを感謝しています。

4月、右目の視野が失われていることがわかりました。麻痺から8年、見え方の悪化は止まらず、今では両目を塞いでの生活を余儀なくされています。光が悪化の要因となるため、外出は週2回まで。鼻の骨をドアにぶつけたり、火傷もしょっちゅう。麻痺直後はパソコンだってできていたのに、今ではグレーの車が走ってきても見えないことがあります。

目を塞いで生活してみて気づかされたことはたくさんあります。枝豆の産毛に驚いたり、水道からボウルにあふれる水の流れる音に聴き入ったり。アイマスクをして聖書に聴き入ると、たちまち私の心は時間・空間を超えて、聖書の世界に降り立つのです。

「聖書読解法」という授業で、創世記をまとめる方法を学びました。これが今ではすっかり日課となり、パウロ書簡を要約して楽しんでいます。このみことばは、こういう文脈の中で語られていたのか、とまるで初代教会を訪問しているような気持になります。パウロの本音（自分は教会でこんな悪口を言われている、とか）にも親しみを覚えます。

岩上敬人先生のクラス

目が塞がれたときに開かれる、復活の主の御霊がどんな逆境をも神を見るために用いてくださるのです。もし、この体験を通して福音が闇の中にいる人に届くなら、こんなに嬉しいことはありません。

「この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」（ローマ書五章5節）

◆前期の学びの中で

主の癒し

聴講生　藤井佳代子

今学期の学びの中で想い浮かべるキーワードは「主の癒し」です。授業中の問いかけや対話及び読書を通して、疑問に思っていたことに主が光をあててくださっていて、学びの時が癒しの時となっています。そのような中で示されたことは、イエス様に深いレベルのところまで癒していただく必要性でした。

今までのことは冷静に自己分析済みで、新生及び信仰生活の中で癒されていたと思い込んでいました。しかし、初めてのチャペル・メッセージの準備中に、取り繕おうとしている自分の壁にぶつかり、神様と人の前に出て神様の恵みを伝えようとしても、神様と自分に真実でなければ何も語れないことが明確になりました。

他の誰でもなく自分自身と真剣に向き合い始め、実際は過去の傷を大きく引きずっていることに気づかされました。イエス様のもとに行き、過去の傷を整理していただき、感情的な束縛から解き放たれるように祈りました。聖霊による満たしを与えていただき、ありのままの自分と隣人を受容できるように切に願いました。

自分の心の中に取り込んでいる歪んだ神様イメージに健全さを取り戻し、イエス様に軌道修正していただきたいと思います。人生観や人との関わり合いだけでなく、祈り方、聖書の読み方、福音の宣べ方、御言葉の解き明かしをさせていただくことにまで、神様の愛と恵みが自然に溢れ出てくるように、神様のタイミングで触れてくださるのを信じることにいたしました。

安心して学び生活できる空間、信頼できる主に在る先生方と兄弟姉妹の存在を最近再認識し、神様が今の私にとって最適な環境を備えてくださっていることに感銘を受けました。皆様の尊いお祈りとご支援に感謝いたします。

私の神学生時代

主の奇しいみわざ

12期生●平位忠子

この原稿依頼を承けてより「主のみわざを思いおこそう、奇しいわざを……あなたのなさったすべてのことに思いを巡らし静かに考えよう」（詩篇七七篇11節、12節）のみことばが心に通ってきます。

80歳になろうとする今日まで、主が備えてくださった道筋を静かに振り返ると心からの感謝と喜びが又しても湧いてきます。

小学5年生の時御救いに与り高校3年の新年会において、主の召しを頂くまでさまざまな道程を摂理の御手のうちに導かれて来ました。その道中では、時には涙することもありましたが常にみことばによる後押しがあり、前進することができました。〝主が備えてくださった〟素晴らしい道、それは当時浦和にあった神学院に入寮することでした。赤児に等しい者を、訓練するに最も相応しい所に置いてくださった。3年間の規律ある生活自体は伝道者になる者たちにとっては当然のこと、順応するに難しいとは少しも思いませんでしたが、聖書を知らない自分を見せられた時は情け無くなりました。

しかし、教室で学ぶうちに、神のみことばとして、その権威に、その深さに、現実さに初めて心底感動を覚えました。さらに、そのみことばに生き、仕えておられる先生方が教壇に立ってお手本としてご指導くださいましたことに感化を受けました。すでに多くは天に帰られましたが、やがてのとき、恩師方にお礼を申し上げたいと思います。

もう一つ、主の備えて下さった所はお祈りの時が多くありました。神のご臨在を意識できるように、主と共にある生活が自然体になるように、御前に一人となれるように、祈りなくして神の業はなされないことを悟るようにとのご訓練でした。毎日が祈りに始まり、祈りで終わる生活でした。

1年生の消灯後深夜に、当時の寮監のご指導のもときよめの恵みに立つことができましたのも、この祈りの時でした。祈りは、主との交わりが深まりゆくと共に信仰が新しくされ力付けられることを教えられました。

3年間、同じ屋根の下で生活を共にした先生方と、今も続いている絆はまさに祈り合いによるものと感謝せずにはおられません。特に同期の先生方とは文通で月に一度必ず祈りの課題をお分かち頂き、所と時をこえて祈り合える幸いを噛み締めております。いかなる状況の中でも、揺ぎない信仰のありかた、生き方を植えつけてくださった3年間でした。

同窓生の近況

41 期生
枚方教会●戸谷芳朗

「主を喜ぶことは、あなたがたの力だからだ」（ネヘミヤ八・10）

最初の任地が京都府向日市にある京都西教会。2年間の奉仕が許され、長男が誕生した。2年目に阪神淡路大震災とその驚きも失せぬ間に、地下鉄サリン事件が続いたが、さらに続く3年目の春の転任は、未熟な牧師に2つの社会的大事件すらしばらく忘れさせた。

岡山教会に転任し、6年間の奉仕が許され、長女と次男が誕生した。この間、数多くの心の病の方々との出会いがあった。心の病は薬で症状を緩和しても、なかなか完治しないこと、薬への依存などの課題もあること、そして私たちの罪のゆえに、だれにでも心の課題がある事実に気づいた。当時、病院を訪問するたびに、心の病へ偏見があることを感じさせられた。

大阪の枚方に移り、ここでも主の憐れみと、教会員の愛に溢れた協力を頂き、18年目の奉仕が許されている。この間、全国の教会でお祈り頂いた次男を先に天に送った。この場をお借りし衷心より、御礼を申し上げます。

神学院スタッフ…恵みの想起

図書・資料の整理②

図書館　三森春生

多くの図書館の本の背には2、3センチ四方のラベルが貼ってあります。

通常3段で、上段は分類記号、中段は著者記号、下段は補助記号を主に数字で記します。分類記号は便宜上3桁で区切り以下必要に応じ数桁を加えます。0～9の数字を組合せた十進分類法DDCが世界で最も多用され、BTCでも使っています（日本ではこれを日本化したNDCを使う館が多い）。中段は著者の名字の頭文字をアルファベット大文字に続き綴りをコード化した3数字で表記します（公共・学校図書館ではかな文字使用が多い）。下段は、翻訳書を原書と区別する訳者頭文字、巻数表示に使います。同じ本を複数所蔵する場合の区別は蔵書の一連番号である登録番号によります。

学苑だより

●夏期実習に入って静かなキャンパス。研修棟は8月上旬完成に向けて最後の工程に入っています。

●研修棟は、教団の研修・宿泊のみならず、各教会のキャンプ、霊修会、アラムナイ関連団体にもお使いいただけます。

●早速、研修棟で教区主事会や教団運営委員会がおこなわれる予定です。また、外部学生団体からも使用の希望が寄せられています。

●来年の同窓会ホームカミングで研修棟に皆さまをお迎えします。

●後援会の創立70周年記念感謝献金は、それぞれ可能な範囲で感謝をもってお加わりください。

●毎月、営繕ボランティアの方がご奉仕くださっています。さらにお加わりいただける方がありましたら徳竹先生にご連絡ください。

●後援会では引き続き世話人のご推薦をお願いしています。

●今月の神学院祈り会は休会です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げつつ、6月の会計報告をさせて頂きます。

6月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
￥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
￥797,725
教会団体による「神学院献金」
￥492,9755
合計￥1,290,700
その他の献金（一時・特別）
￥715,885

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「神は、われらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある強き助け。それゆえ、われらは恐れない。たとえ地が変わり、山々が揺れ、海のただ中に移るとも。」（詩篇四六・1～2）

西日本を記録的な豪雨が襲ってからひと月が経とうとしています。復旧作業も長い戦いとなることが想定される中で、被害に遭われたお一人おひとり、そして被災地にあるすべての教会を祈りに覚え、それぞれに示される支援に取り組ませていただきましょう。また全国的に酷暑の夏となっていますが、お互いの霊肉ともに支えられるように祈りつつ、進みましょう。

8月には各地域の夏期聖会が開催されます。今年は「とにキャン」、ユース・ステーションなど青年のプログラムも行われます。

各教会でも、夏の諸行事が、祈りつつ進められて行くことでしょう。どの集会でも天来の恵みが豊かにあふれるように。

■本　部

▽8月13日（月）～17日（金）の週は夏期休業期間となり、本部や出版事業部関係の業務はお休みとなりますのでご了解ください。

《西日本豪雨災害支援》

広範囲に大きな被害をもたらした西日本豪雨災害に関して、JEA援助協力委員会を窓口に「西日本豪雨災害支援金」の受付をしています。各地域の諸教会の意向を尊重し「教会から教会へ」の理念に沿って支援をしていく予定です。

【支援金の送金方法】

《郵便振替》

00190-5-7790（JEA）

日本福音同盟援助協力委員会

通信欄に「西日本豪雨災害支援金」と明記。領収書は原則として送金の際の払込受領書をもって代えさせていただきます。

具体的な支援活動状況については、左記のJEAウェブサイトで順次情報を更新しています。なお、呉教会に広島災害対策室が置かれ、内山忠信先生が労しておられます。

https://jeanet.org/

■国内教会局

〈会議〉

27日（月）～28日（火）
全国教区主事会（秋）
会場・BTC研修棟

〈教区会〉

14日（火）～15日（水）
北海道教区会
▽新部員梅田師を含む女性牧師部会は6月25日本部で行われ、前半には岩上祝仁局長を迎えて質問させて頂き、後半は2020年に向けて実務、祈りの時を持ちました。

《8月に開催される各地域聖会開催情報》（開催日順）

◇東北聖会
7月31日（火）～8月2日（木）
講師・朝比奈悦也師
会場・八幡平
◇四国聖会
7月30日（月）～8月1日（水）
講師・蔦田崇志師
会場・セントラルホテル鴨島
◇東関東聖会
8月7日（火）～8日（水）
講師・小平牧生師（基督兄弟団西宮教会）
会場・成田ビューホテル
◇林間聖会
8月14日（火）～15日（水）
講師・宮川浩二師（東京フリーメソジスト小金井教会）
会場・YMCA東山荘
◇ポプラ聖会（北海道地区）
8月15日（水）～16日（木）
講師・蔦田康毅師
会場・札幌教会
◇九州聖会
8月21日（火）～23日（木）
講師・古波津保秀師（チャーチ・オブ・ゴッド川崎教会）
会場・阿蘇の司ビラパークホテル
▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバイザーにお申し出ください。

■世界宣教局

▽平瀬義樹宣教師（台湾）は、お父様の平瀬正行師のご葬儀に出席するため、ご家族で一時帰国されました。慰めを祈りましょう。

▽我孫子にある宣教師館（ミッションハウス）の管理人は島田貴子師（安食教会）から水口聡、恵兄姉（中目黒教会）に引き継がれました。帰国中の宣教師との連絡は、102号室（04・7179・0314）に直接お願いします。

〈IWF関連〉

▽ロビン・ホワイト宣教師の今期の日本滞在が延長となり、2019年5月まで奉仕が可能となりました。巡回奉仕を希望される教会は、直接ご相談ください。支援申請の希望がある場合は、委員の梅田登志枝師までご連絡ください。

〈SIBS関連〉

▽國重潔志師は8月3日～11日まで、SIBS理事会に出席するため、訪印します。

■教育局

〈青年課〉

◇第6回ユース・ステーション全国大会
日程・8月12日（日）～14日（火）
会場・聖宣神学院
テーマ・「Confidence ～もっと、自信を」

〈中高生課〉

◇第11回全国中高生とにキャン
日程・8月14日（火）～17日（金）
会場・聖山高原キャンプ場
テーマ・「The Goal ～これが僕らの歩む道」

今月行われる全国的な青年プログラムに格別の主の祝福とみ守りをお祈りしましょう。

■聖宣神学院

▽夏期実習任地（前期7月30日（月）～8月26日（日）、後期8月27日（月）～9月23日（日）の8週間。カッコ内は前期・後期。順不同・敬称略）

竹内俊之（高津・豊田）
峯尾仰生（東風平・静岡）
中尾敬一（豊中・東風平）
秋田郁美（日本フリーメソジスト町田福音・中目黒）

▽神学院祈り会は今月は休会です。

▽秋の入学審査は9月3日（月）、願書提出期限は8月20日（月）です。志願者の方は、お間違いのないように願書を提出してください。

▽オープン・キャンパスのご案内
10月19日（金）午後から20日（土）昼まで。案内チラシをご覧ください。部分参加も歓迎。

消息報告

▼名古屋教会は、会堂建替のため8月3日より集会所と牧師住居が下記住所となります。約9ヶ月を予定しています。
住所＝〒453-0045
名古屋市中村区藤江町3-73
電　話＝052-433-3812
FAX＝052-433-3813

▼新浜教会は、この度、駅近くに移転物件（賃貸）が備えられ、準備工事と引越作業を経て、9月から新拠点で集会開始の予定です。

▼7月13日、平瀬正行師（引退教師）が召天されました。16日に富士見台教会で告別式が執り行われました。ご遺族に天よりのお慰めをお祈り致します。

▼「祈りのネットワーク」の訂正
引退牧師のページ（88頁）で、田中敬康師の郵便番号を訂正。
（誤）〒931-
（正）〒981
教報PDFパスワード＝7642

新生宣教団　定価　一部100円（税込）
郵便振替　00110-7-133609
発行人　内山　勝　編集者　寺村秀嗣
発行所　東京都千代田区神田駿河台一-一
OCCビル　イムマヌエル綜合伝道団本部
印刷所　埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇